

# おおぐち

Oguchi

## 議会だより

3月定例会 No.171  
平成20年5月1日

発行：愛知県大口町議会

まちの予算をチェック	4
障がい者に配慮した整備を（一般質問）	11
責任を取る考えは（一般質問）	18
議会だよりコンクール 4年連続入賞	20



全校児童が新1年生を拍手でお出迎え。お兄さんやお姉さんが作ってくれた花のゲートをくぐります。ちょっぴり緊張の中、カメラに向かって晴れやかな笑顔をくれました。

# 祝

# 大口中学校開校

## 教科センター方式の授業始まる



3月定例会は4日から21日までの18日間の会期で開かれました。

議案説明の前に町長から「持続できる明日の大口町を築くため、今後も財政基盤の強化、効率的な行政運営、地域の課題解決に取り組んでいきたい」と、20年度の施政方針が示されました。

町提出議案は新年度予算をはじめ条例の改正や補正予算など全部で24議案、議員提出議案として会議規則の改正が提出されました。採決の結果、いずれの議案も可決しました。

一般質問では9人が町政全般にわたり指摘・提案をしました。

# 20年度一般会計予算

# 78億円に決まる

一般会計77億8000万円、特別会計38億4379万円の当初予算案は、いずれも原案どおり可決されました。19年度の当初予算と比較すると、一般会計で23億3000万円、特別会計で12億982万円の減額になっています。

**19年度補正予算**  
19年度の法人町民税は3億5000万円を追加し、総額20億4126万円になりました。当初は約14億円でしたので、予想をはるかに超える企業業績であったといえます。

## 介護保険の 激変緩和延長

介護保険料の激変緩和措置が1年延長されます。税制改正によって18年と19年の2か年にわたり、第4・第5段階の人に激変緩和措置が講じられて

いましたが、20年度も継続する政令が公布されたので、19年度と同額になるよう改正しました。

## 暴力団排除の 明け渡し規定

町営住宅から暴力団員を排除するため、入居資格や明け渡しの規定を改正しました。

この改正は、19年に起きた拳銃発砲事件を契機に、公営住宅から暴力団排除の要請が高まり、国土交通省から入居制限等の基本方針が示されたことによるものです。

改正条例は4月1日から施行されています。



新しい大口中学校では教科センター方式で授業が行われます。教科センター方式とは、国語や数学などの教科に合わせて生徒が教室を移動していくものです。大学では当たり前の方式ですが、中学校では先駆的な取り組みです。新しい校舎の中、新しい取り組みで、子どもたちが自主的に考え、そして行動できる大人に成長することを願うばかりです。  
(上)正面から見た大口中学校。ガラスドームの下が中庭  
(左下)中学生とともにテープカット  
(中下)2階渡り廊下から、中庭で行われた完成式典を撮影  
(右下)アトラクションとして披露された木遣(きやり)

## 町職員

## 地域手当の廃止 22年度から

町職員に支払われる地域手当が21年度で廃止されることになりました。

地域手当は民間の賃金水準を基礎とし、物価等を考慮して給料等の9%を支給していましたが、国家公務員の給与制度に合わせ、廃止するものです。

## 固定資産評価委員

佐藤友泰さん



現委員の石原國彦さんの任期は5月6日で満了になります。後任に佐藤友泰さん(40歳、中小口)を選任する議案が提出され、議会は同意しました。任期は3年間です。

20年度

# まちの予算をチェック

町長の施政方針によると「集中改革プランに基づく選択と集中を念頭に予算編成した」というくだりがあります。「住民にも応分の負担を求めながら、国に依存しない自立した持続可能な財政基盤づくりに努める」ため、どんな事業を選択して、何に集中するのか、予算をチェックしてみたいと思います。



守ってばかりでは勝負に勝つことはできません。逆に攻撃一辺倒でも相手にすきを突かれてしまいます。じっくりその時を待ち、そして間髪入れず踏み込む決断力。何をやって何をやめるべきか、まちの将来のため大口町の決断は続く。

# 自主財源比率 85% 新たな借金なし!!

一般会計当初予算

表1. 会計別当初予算比較

会計名	20年度	19年度	差し引き	前年比(%)	
一般会計	77億8000万円	101億1000万円	▲23億3000万円	▲23.0	
特別会計	国民健康保険	17億2824万円	19億1485万円	▲1億8661万円	▲9.7
	介護保険	8億6076万円	7億7274万円	8802万円	11.4
	後期高齢者医療	1億5755万円		1億5755万円	皆増
	老人保健	1億4562万円	13億5000万円	▲12億438万円	▲89.2
	国際交流	204万円	51万円	153万円	300.2
	公共下水道	9億2448万円	9億8863万円	▲6415万円	▲6.5
	農業集落家庭排水	2403万円	2570万円	▲167万円	▲6.5
社本育英	107万円	118万円	▲11万円	▲9.3	
合計	116億2379万円	151億6361万円	▲35億3982万円	▲23.3	

注1: 土地取得特別会計は単位未満のため省略  
注2: 各金額は単位未満を四捨五入

**20**年度一般会計当初予算(表1参照)は77億8000万円、前年度と比較して23億3000万円の減額になりました。

大幅な減額となった理由は、20年度の中学校建設事業が、旧校舎の取り壊し、体育館駐車場および外構工事を残すのみに留まりました。

占めます。その内訳は、固定資産税45・6%、町民税(個人・法人)50・5%、その他としてたばこ税と軽自動車税などが

**20**年度一般会計当初予算(表1参照)は77億8000万円、前年度と比較して23億3000万円の減額になりました。

なっており、19年度の34億円から7億円弱に減ったことによるものです。

**歳**入は町税で55億5882万円、歳入全体のうち71・5%を占めます。その内訳は、固定資産税45・6%、町民税(個人・法人)50・5%、その他としてたばこ税と軽自動車税などが

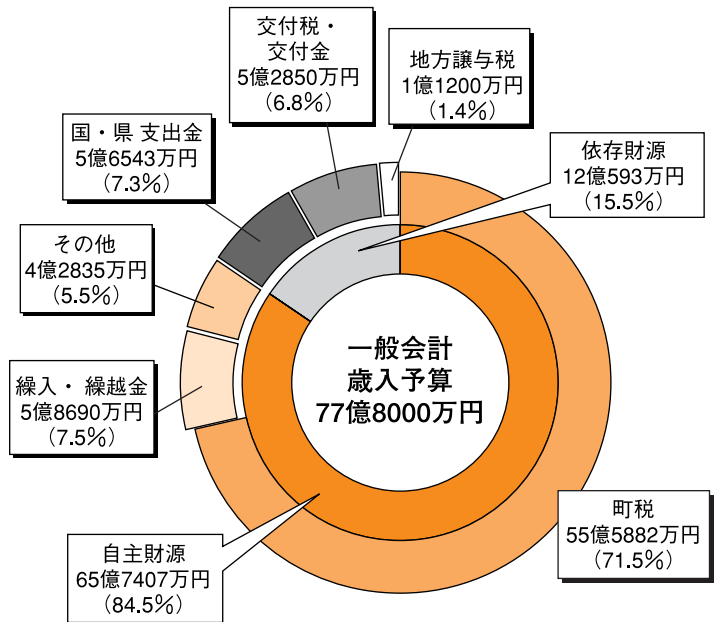


図1. 歳入内訳

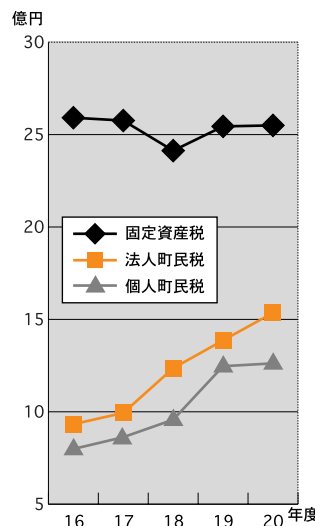


図3. 町税予算額の推移

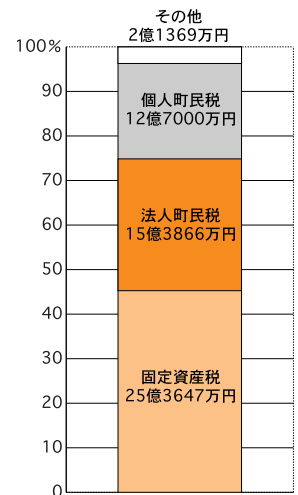


図2. 町税比率

あります(図1・2参照)。16年度から5年間の予算額の推移(図3参照)をみると、固定資産税はほぼ横ばい、個人町民税は税源移譲の関係で19年度に大幅アップ、法人町民税は右肩上がりが続いています。

つたのは、平成3年度以来のこと。企業業績の好調が町財政を支えています。

20年度の法人町民税は、前年比10・6%増の15億3866万円で計上しています。

一般会計の当初予算で町債(借金)を組まなか

方歳出では、中学校建設事業が7億円弱になったものの、教育費が19億5779万円に依然トップ。次いで民生費が19億4986万円。この二つで歳出予算の半分を占めます。土木費が前年に比べ11億4295万円になっ

野1号緑地に調整池を造る予算、1億2500万円が計上されたためです。それぞれの予算は一体どれくらいなのか、町民人口で割って1人当たりの金額を算出してみました(図4参照)。

**新** たに、特別会計として後期高齢者医療特別会計が創設されました。これは20年4月から75歳以上の高齢者を対象とした医療制度が始まることに伴い、老人保健特別会計に替わって設置されるものです。ただし、老人保健特別会計には3月診療分と過誤調整等の事務があるので、3年間

は特別会計として残りません。

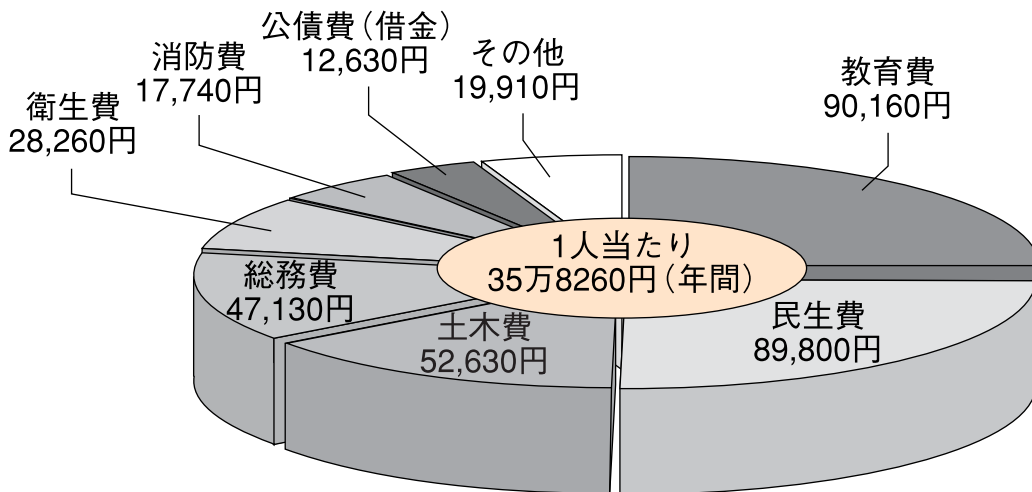


図4. 町民1人当たりの支出額

注1: このグラフは項目別予算額を4月1日現在の大口町の人口で除したものです  
注2: 10円未満の端数は切り捨て



### 放課後子ども教室

子どもたちの放課後の安全な居場所を確保するため、町内のNPO登録団体等に委託してスポーツや文化活動に取り組みます。

**予算額 430万円**



### 病児・病後児保育

病気の子どもを育児することができない場合に、一時的に保育をする事業です。町内の事業所に委託します。

**予算額 600万円**

## 新規事業

# あらかるせ

20年度の新規事業を予算書の中から探してみました。これまでの事業をバージョンアップさせるもの、全く新しく取り組むものまでいろいろありますが、その中から、きらっと光る事業を紹介します。

(単位未満切り捨て)



### 防災行政無線 Jアラートの導入

防災行政無線の装置を更新し、瞬時に緊急地震速報をお知らせします。

**予算額 3360万円**



### 廃油回収事業

一般家庭から食用廃油を集め、バイオディーゼル燃料を精製します。巡回バスに利用するなど資源の有効活用を図ります。

**予算額 367万円**



### 資源ごみ回収助成金

新たに缶・ビン・ペットボトルも対象に加え、地区に資源ごみ回収助成金を支払います。事業所から出る古紙類は有償で回収します。

**予算額 1623万円**



### 調整池設置工事

降雨による床上浸水被害を解消するため、余野神社南にある余野1号緑地の地下に調整池を造ります。

**予算額 1億2500万円**



### 堀尾橋拡幅工事

五条川に架かる堀尾橋に歩道を新設します。工事は2か年で、20年度は橋の下部工(橋台)を施工します。

**予算額 4000万円**



### 健康文化センター 管理運営委託

指定管理者制度を活用して、民間事業者健康文化センターの管理運営を委託します。

**予算額 3200万円**

# 質疑あれこれ

3月議会に上程された議案の中から主な質疑、賛成・反対の討論が繰り広げられたものを要約してお知らせします。



## 農業公園構想

**問** 農業公園構想として油精製機を購入するのはいい。いいじゃないか。

**答** 家庭から出る天ぷら油などの廃油を、BDF（バイオディーゼル燃料）に再生するため購入する。BDFは巡回バスや農耕用燃料に利用する。菜の花による遊休農地の活用、菜種油の精製、搾った油かすの農地への還元などとともに、資源循環サイクルの一つとしてとらえているので、農業公園構想用とした。

**問** 油精製には劇薬も使用する。ハートフル大口（授産所）で計画してい

るようだが、場所的にも無理ではないか。

**答** ハートフルの方と話しているが、押し付けられるつもりはない。やってみるといふことであればお願いするが、できないということであればリサイクルセンターで実施する。

## 歳入

**問** 地方交付税は20年度600万円、19年度は1800万円。3分の1に減少した理由は。

**答** 予算策定時は、地域手当を廃止する条例の改正が行われていなかったもので、一部カットを見越して予算を立てた。

**問** 条例が可決した場合、交付税はいくらになるか。

**答** 1500万円程度はもろいと思う。

**問** 19年度の法人町民税は20億円を超える。にもかかわらず、当初予算を15億4000万円弱にした根拠は。

**答** 景気の不安材料もあり、19年度と同様とは考

えにくい。予算査定においては、あえて厳しい見方をした。

税収が順調に推移していけば、早急に補正で対応する。

## 特定健診

**問** 市町村が行っていた基本健診から医療保険者が行う特定健診に変わると、どうなるか。

**答** 町は国民健康保険の保険者として、40歳から74歳の被保険者・被扶養者を対象に、医療機関等に委託して健診を実施する。

特定健診はメタボリックシンドロームと予備群を見つける内容。特定健診には基本項目と詳細項目があり、その両項目を自己負担1000円（約1割負担）で受けていただく予定。

※メタボリックシンドロームとは、内臓脂肪に加え、高血糖、高血圧、脂質異常の危険因子を2つ以上持っている状態をいう。

## 賛成討論

柘植 満議員

中学校卒業まで医療費を無料化にするなど、町の5本柱の施策についても具体的な予算が計上されている。

また、今後の小学校等の整備事業のため、基金への積立も増額されており、20年度の当初予算として適切と判断する。

## 反対討論

吉田 正議員

延長保育料の継続、安全性・経済性を確認しないまま進めようとするBDF事業、森林税導入に関する予算がある。

福祉施策において評価すべき点もあるが、予算として認めることはできない。

## 採決の結果、可決

（賛成12、反対2）

# 19年度補正予算

# 町独自の耐震補助を



地震による被害を最小限に食い止めるためにも、耐震補強制度の充実が望まれます＝16年10月26日、新潟県小千谷市内の倒壊家を撮影

受けてもらえるようになるかを課題として検討したい。

延長保育料  
当初200万円  
から800万円へ

## 法人町民税 業績好調で大幅アップ

### 賛成討論

岡 孝夫議員

この補正予算は、歳入歳出ともに、事業量の確定や精査に伴う増減であり、それぞれ分野において効率的な運営が行われ、適正に処理されているものと判断する。

### 反対討論

吉田 正議員

法人町民税が3億5000万円も追加となる中、子育て世帯から延長保育料を徴収。その額は825万円を見込んでいます。大口町はお金がない自治体ではない。

**問** 木造住宅の耐震診断委託料と改修費補助は、いずれも3分の1しか使われず補正減するもの。どういう状況か。

**答** 耐震診断は、当初30件で予算を組んだが10件しか申し込みがなく、改修費補助も3件分が1件しか利用されなかった。昨年に、ふれあいまつりで耐震診断の周知に努めたが成果は上がらなかった。

**問** 補助対象となる強度を得るには相当の補強をしなければならず、改修をあきらめるケースがある。町独自に基準を定めるなど、耐震改修を進める考えはないか。

**答** 現在策定中の耐震改修促進計画で、こうした耐震診断・耐震改修を

**問** 600万円もの追加補正。1か月の延長保育料の最高額はいくらか。

**答** 1か月1万5000円の人もいた。

**問** 子育て支援に逆行しているとは思わないか。

**答** 受益者負担として適正な単価と理解しているし、保護者にも理解をいただいていると思うが、通常保育料の見直しにあわせて延長保育料についても再検討したい。

**問** 法人町民税は当初予算13億9000万円、3月補正で最終20億4000万円、その差6億5000万円である。当初の見込みは妥当か。

**答** 企業訪問して適正な予算を計上するよう努めているが、予想をはるかに上回る結果になった。18年度と比較すると、納税額上位3社で5億近く増えている。それには一企業の会計年度間の調整も影響した。法人町民税は景気に左右されるので、推測は非常に難しい。

採決の結果、可決  
(賛成12、反対2)



# 質疑あれこれ

3月議会に上程された議案の中から主な質疑、賛成・反対の討論が繰り広げられたものを要約してお知らせします。

## 地域手当の支給は 交付税をカット

**問** 職員は、地域手当（現行9%）の廃止でいくら減額になるのか。

**答** 基本給や手当によって異なるが、勤続20年で妻と子ども2人を扶養している場合を例にすると、年間約60万円の減額になる。

**問** 国家公務員の給与制度に従わないと、どうなるのか。

**答** 従わない場合は地方交付税をカットすると言われている。

なぜ、一宮市や豊川市が3%なのに日進市は15%（県内最高）なのか。どうして大口町は0%なのか。制度自体に疑問は感じるが、地域手当を残して交付税をカットされては、住民の理解が得られるとは思えない。

職員には、人事評価制

度の中で、職務能力による昇給で応えたい。

### 賛成討論

柘植 満議員

17年の人事院勧告に基づき、地域手当を廃止するもの。職員の人生設計に大きな影響を与えることは明白だが、町執行部の苦渋の決断および職員の理解を尊重したい。

### 反対討論

田中一成議員

職員のやる気を奪う改革。地方分権というが国に迎合しているだけ。優秀な職員を確保するためにも是正を求めていくことも、住民の理解が得られる措置を講ずべき。

採決の結果、可決  
(賛成12、反対2)

## 特別徴収と普通徴収との違いは

後期高齢者医療

**問** 後期高齢者医療で保険料を普通徴収される人とは、どういう人か。

**答** 年金が年額18万円未満の人、または後期高齢者医療と介護保険の保険料の合計額が年金の2分の1を超える人。保険料は年金から徴収せず、8回の納期で納めてもらうことになる。

**問** 年金から天引きできないような保険料を、普通徴収ならどうして納められるというのか。

**答** 特別徴収（年金からの天引き）の判定は、年金保険者や年金種別によって優先順位が決められている。その優先順位が、1位となった年金の金額によって特別徴収・普通徴収に分かれるので、年金が少ないから普通徴収になったとはいえない。

採決の結果、可決  
(賛成12、反対2)

### 賛成討論

丹羽 勉議員

後期高齢者医療は、世代間の負担の不公平をなくし、将来にわたり医療保険制度を持続可能なものにするもの。この条例は、保険料の納期等を定めるもので適切である。

### 反対討論

吉田 正議員

国保税は1年分を10期に分けての納付だが、後期高齢者医療は8期。1回の負担が大きい。そもそも、この制度は問題があるので賛成できない。

ここが聞きたい!

一般質問

# 町政を問う

3月定例会の一般質問は  
9人が質問しました。

一般質問 土田 進議員

## 部長 愛岐南北線の進め方を問う 地権者の理解を得て進める



土田 進議員

### 一口メモ

愛岐南北線の工事箇所は、県道若宮江南線から国道155号までの750メートル区間。幅員は16メートル。現在、堀尾跡公園になっている部分を通して、五条川に橋が架けられる。

**土田** 都市計画道路愛岐南北線の進行状況と今後の工事予定は。

**環境建設部長** 道路用地は約7割の面積を確保した。今後とも更に強く要望して、積極的に用地買収を行いたい。

所、具体的には五条川に

架かる橋から進めると聞いている。

**土田** 橋の取り付け部分に未買収の土地があるにもかかわらず工事を計画している。地権者の同意がないまま工事を進めないでもらいた

い。  
現在の計画路線を、若干変更できないか。

**環境建設部長** 工事は地権者と話し合いの上進めていく。

昭和46年に都市計画決定された道路線形は、地元で了解が得られなかった。その後、さまざまな協議を重ね、平成11年に計画変更を行なうことができた。

計画変更を行なうことができた。

既に7割の用地を買収しており、現段階で計画を変更することはできない。

**土田** 説明会は推進協議会の委員だけではなく、関係する全戸の住民に行うべき。全戸を対象にした説明会は、今後計画されるのか。

**環境建設部長** これまでも事業の進行にあわせて、地権者や地区住民に説明会を実施してきた。

工事開始前にも説明会を予定している。

**土田** 一日も早い愛岐南北線の完成を望むとともに、地権者には誠意を持って、円満に問題を解決していただきたい。

平日朝の通勤時間帯は愛岐南北線から回ってくる自動車で大変な混雑。子どもたちの安全が脅かされています=3月12日、御供所地内で撮影



# 余野1号公園の整備は 部長 中小口区画整理にあわせて

## 齊木

余野1号公園は、区画整理事業完了後も雑種地のまま放置されている。草が生い茂り、害虫も繁殖し、近所の方から苦情も聞く。同じ事業で作られた他の公園は整備が完了し、多くの住民の方に利用されている。



資源ごみ回収場所として敷地の一部を提供している余野1号公園

名ばかりの公園ではなく、付近の皆さんが利用できる程度の整備が必要である。整備の予定はないのか。

## 環境建設部長

余野1号公園

は、街区公園で規定する半径250メートル以内の民家もまばらであったことから、整備の時期を模索していた。区画整理事業が完了してから10年が経過し、当時とはずいぶん様変わりをしてきている。今後は、地区の意見を集約し、中小口の区画整理事業の進展にあわせて整備を行っていききたい。



齊木一三議員

# 障がい者に配慮した庁舎整備を

## 部長 洋式トイレに変更したい

## 齊木

役場庁舎はバリアフリーが整った施設とは言いがたい。

玄関への呼び出し表示、誘導用ブロック、段差の解消、車いす利用者のためのエレベーターなど、身体的弱者の方も気軽に利用してもらえる建物にすべきである。

20年度に計画されている庁舎の耐震設計にあわせて、高齢者や障がい者に対するバリアフリー整備を含めてはどうか。

## 総務部長

21年度に予定している

耐震補強工事には、屋上防水シートの張り替え、サッシの窓枠改修、電気・電話設備の付け替え等も検討している。

今回の耐震補強の実施設計に、高齢者や障がい者に対する配慮の一つとして、他の施設同様、トイレの一部を洋式に変更したい。



議会広報常任委員会が役場玄関脇に置いてある車いすを使って、エレベーターを利用できるかどうかを検証。足を置く部分が扉に当たってしまいました。

# 町民参加条例の策定状況は 室長 骨組みができつつある



丹羽 勉議員

## 丹羽

現在大口町は、地方分権改革により、国から移譲される権限を住民と行政が協働していくため、町民参加のまちづくりに取り組んでいる。

- ① 町民参加条例の策定状況は。
- ② 条例策定会議の委員に、町民代表として、地域に精通した人を加えている。

## 政策調整室長

① 昨年7月

に策定会議を発足し、現在までに会議を5回、それに、勉強会と懇談会をそれぞれ1回開催した。

現在は、11地区での地区懇談会、活動中の団体



さつきヶ丘区で開催した地区懇談会。いろいろな設問に、どれがもっとも自分の意見に近いかを、色紙を挙げて意思表示をしました。

へのグループインタビューでいただいた意見を参考に、条例骨子が見え始めたところである。

② これまでの経過を踏まえると、同じ委員のほうがいいと思う。

たたき台として案を作成するので、懇談会等の機会をとらえて意見をお聞きする。また、その意見を条例案に反映させている。

## 丹羽

公共交通機関のない本町にとって、コミュニティバスは重要な施策と思うが、多額な費用を投じているので批判もある。

- ① 利便向上、利用者・運賃収入の増加につながる路線・ダイヤの改正計画はあるか。
- ② 運賃収入、広告収入などのほか、さらなる増収計画はあるか。

## 政策調整室長

① 南部ルート

ト・北部ルート沿線企業に、従業員の通勤用として利用できるかを協議している。こうした企業と話がまとまれば、路線・ダイヤ改正に取り組むことになる。

# バス事業への今後の取り組みは 室長 企業の従業員の通勤用にも



〇〇〇〇株式会社  
大口町下小口〇・〇〇  
0587-95-〇〇〇〇

バス停広告は1か月5000円

### コミュニティバスの広告

バスの車両内部やバス停に企業等の広告を掲載します。車内の窓枠上部にB3横の大きさの広告を載せるには、2か月3000円。金額は掲載場所によって異なります。詳細は政策調整課まで。

# 認定こども園はどうなった 部長 あえて導入する必要はない

**木野**

① 平成16年3月

月定例会の一般質問で幼保一元化についての質問に、試行的に1園で実施したいと答弁された。

その後、どのような結論を出されたか。

② 平成18年10月に「認定こども園」制度がスタートした。

保育に欠ける、欠けないに問わず、幼児教育・保育が受けられる、町営による保育所型の認定こども園を設置する考えはないか。

健康福祉部長 ① 保育士が学識経験者とともに先進地視察や勉強会を重ね、本町への導入を検討して

**健康福祉部長**

① 保



木野春徳議員



## 認定こども園

保護者の就労に関係なく子どもを受け入れ、幼児教育・保育を実施する。さらに、すべての子育て家庭を対象に相談活動や親子の集いの場を提供する機能があれば「認定こども園」として認定を受けられる。19年8月現在、全国で105件、愛知県内で3件の認定がある。

きた。導入の背景には保育園の待機児童の解消や幼稚園施設の有効活用がある。

本町の現状と照らし合わせる必要はないと判断した。

② 保育に、より教育的要素を加える「保育指針」

に改定された。本年はその指針に基づいた保育計画を作成し、21年度から実施していく。

認定こども園制度そのものについても研究を重ね、子どもたちにとって、よりよい教育環境の実現に努力したい。

## 農業公園構想の今後は

### 室長 小麦の生産も取り組む

**木野**

平成15年3月、全町農業公園構

想が提案された。町長の重要施策として、これまで具体的にどのような取り組みがされたか。

またこれからの取り組みは。

**政策調整室長**

具体的には、

朝市会による朝市の開催、河北エコ・リサイクル会の漬物の製造販売、ヘルシーエイジングの会による菜の花エコプロジェクトなど、さまざまな団体の取り組みを支援してきた。

20年度は菜の花の栽培、菜種から搾油、廃食油からBDF（バイオディーゼル燃料）の精製までの循環システムを構築したい。

また、「いこい工房」で製造されるパンの原料となる小麦の生産にも取り組みたい。

一般

質問

木野春徳議員



宮田和美議員

ごみ減量20%に向けて

# 常時回収場所を増やしては

## 部長 リサイクルセンターを活用

**宮田**

「年末ごみ減量作戦」として町

内各地で資源ごみの回収が行われ、可燃ごみの削減に大きな成果を上げることができた。

しかし、可燃ごみとして出されるごみを見ると、依然として資源ごみが多く含まれている。

ごみ減量20%に向けて、4月からスタンプ事業が始まるが、月2回の回収日に持っていけない人のためにも地区の常時回収場所を増やしては。

### ごみ減量20%

平成17年11月26日に行われた「焼却ごみ減量町民集会」において採択された宣言。焼却場の老朽化を機に、平成18年度から3年間で焼却ごみを20%削減しようとする取り組みが行われている。



河北グラウンド駐車場にある資源ごみの常時回収場。ペットボトル、トレー、雑がみなどが整然と仕分けされている。

### 環境建設部長

常時回収の拠点となるリサイクルセンターの開館時間の延長、開館日の増加などを考えている。

地域での常時回収は、地域の皆さんの協力を得て進めていきたい。

ごみ減量と地球温暖化防止に

# レジ袋有料化の考えは

## 部長 2市2町で合意

**宮田**

大手スーパーが全国的にレジ袋

の有料化に取り組むという新聞記事があった。企業も積極的に環境問題に取り組むとしている。

町内に焼却施設を持つ町民として、ごみ減量や地球温暖化防止にもっと関心を持って、積極的に行動する必要がある。

① 他の市町と協力し合い、レジ袋の有料化に取り組む考えはないか。

② マイバック運動を、さらに展開してはどうか。

### 環境建設部長

① レジ袋の有料化を実施するには

施設舗の売り上げ減少が問題となるので、広域的

な取り組みが必要と考えている。

昨年12月に、犬山・江南・大口・扶桑の2市2町で、レジ袋の削減・有料化に取り組むことを合意した。現在はその実施に向けて各市町で調整している。

② 市民団体・企業・行政が一体となって運動するのが望ましい。行政としても運動の支援を検討したい。

# 消防の広域化は消防力の低下 部長 消防体制の整備・確立が目的

**総務部長** 広域化は、整備・確立が目的。消防のレベルアップが図れる体制作りを進めなければならぬと考えている。

**吉田** 平成18年に消防組織法が改正され、管轄人口30万人以上の消防本部にせよということになっている。

広域化はどんなメリットがあるのか。

職員を現場要員に③専門スタッフの増強④車両の計画的整備が可能—などのメリットがある。

**吉田** 広域化すると消防車両が少なく済むようになるが、消防力の低下につながるのではないか。

**総務部長** ①大規模災害・特殊災害への対応が可能②事務



吉田 正議員

## 尾張中・北部の消防力の整備指針に基づく充足率

消防本部名	面積 (km <sup>2</sup> )	人口	人口計 (万人)	消防吏員数 (人)	消防吏員一人当たりの人口 (人)	H18充足率 (%)											
						ポンプ車						救急車					
						基準	現有	充足率	基準	現有	充足率	基準	現有	充足率	基準	現有	充足率
西春日井	41.88	157,605	88.0	159	991.2	8	8	100.0	41	44 (43)	107.3 (104.8)	6	6	100.0	21	30	142.9
岩倉市	10.49	47,939		43	1,114.9	4	4	100.0				2	2	100.0			
江南市	30.17	99,693		108	923.1	6	4	66.7				4	4	100.0			
丹羽	24.76	54,709		73	749.4	4	5 (4)	125.0 (100.0)				3	3	100.0			
犬山市	74.97	74,869		77	972.3	6	5	83.3				3	3	100.0			
小牧市	62.82	148,164		150	987.8	8	6	75.0				5	5	100.0			
春日井市	92.71	298,302		287	1,039.4	14	12	85.7				8	7	87.5			
計	337.8	881,281		897	982.4	50	44 (43)					31	30				

※広域化の圏域における充足率は消防力の整備指針の基準に基づき算出。丹羽の( )はH19年度

## 延長保育料

# 通常保育より高い人は何人か

## 部長 該当者は24人

**吉田** 通常保育料より延長保育料のほうが高くなっている人数はどれだけか。

**健康福祉部長** 条件にまる人は24人。このうち23人は、母子家庭または第三子保育料無料化事業の対象者であり、通常保育料が減免されている。

**吉田** 延長保育を利用している保護者の意見は。

**健康福祉部長** 延長保育の利用者を対象に、その問題に限って意見を聞いたことはない。

しかし、19年度に開催した「これからの保育園のあり方を考える会」や保育所運営委員会で、保護者の方から意見をいただいたことはある。

# 道路行政をどう考える

## 部長 幹線道路の整備は欠かせない



倉知敏美議員

### 倉知

道路行政について次の3点を問う。

- ① 道路行政の基本的な理念・姿勢について。
- ② 各区からの土木工事要望は、その検討結果を説明し、住民に理解を得ることが肝要。町の見解を求める。
- ③ 総合計画では協働のまちづくりをうたっている。軽微な作業は、勤労奉仕的な協働も必要と考えるが、いかがか。

### 環境建設部長

① 生活道路

から通過車両を排除し、安全を取り戻したい。それにはやはり、幹線道路の整備が欠かせない。

道路整備には用地買収などの難しい問題があるが、国や県にも要望を重ねて進めていきたい。

地域の要望についても、

条件が整ったものから順次進めていく。

② 要望書に付けてもらった緊急度・優先度をもとに工事は計画している。

工事予定場所は区長さんにお知らせしている。

③ 大口町も、以前はそうした制度があったが、現在は廃止された。

住民との協働を考えると、そういう方法も望ましいとは思いますが、住民に新たな負担を求めることにならないか検討したい。

## 国道155号はどのように 暫定的に4車線化を優先

### 倉知

① 国道155号（北尾張中央道）は幅員23メートルで都市計画決定されている。

新たに協議会を作り、幅員30メートルの要望をしていくとのことだが、これまでどのような働きかけをしてきたか。

② 朝夕の渋滞解消のため、早期着工が望まれる。

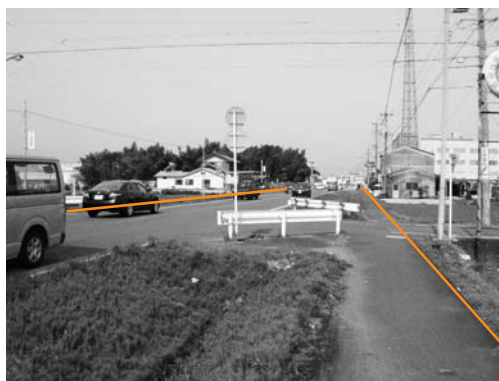
後顧に憂いを残さぬよう、柔軟で合理的な対応が最善と思うが、どうか。

環境建設部長 ① 以前、県から30メートルの打診があった。当時は土地改良の換地作業が進んでおり、幅員の変更は大きな影響を与えたとの判断から、土地改良事業での用地確保は断念された。

### 環境建設部長

① 以前、県

から30メートルの打診があった。当時は土地改良の換地作業が進んでおり、幅員の変更は大きな影響を与えたとの判断から、土地改良事業での用地確保は断念された。



秋田（替地）地内から江南市方面を臨む国道155号。オレンジの線が幅員23メートルのライン

保は断念された。

道路網整備計画（平成10年策定）は、30メートルで計画している。この計画は、地区の集会場に図面を張り出すなど、住民に周知を図った。

155号沿線で開発行が行われる場合は、幅員30メートルとして、控

えて計画してもらいたい。お願いしてきた。

② 渋滞を早期に解消するため、暫定的に現況幅員のまま4車線化工事を優先させるが、将来は30メートルとして、県に求めていきたい。



# 地球温暖化防止の対策は 部長 前向きに検討したい

## 柘植

地球温暖化対策は待ったなしの現状であり、2012年

までに6%の二酸化炭素の削減義務が課されている。実際には毎年増加しており、本気で取り組む必要がある。

## 環境建設部長

① 現

② レジ袋のほかにも、省エネ製品の購入や巡回バスの利用にもエコポイントを検討しては。

③ 環境家計簿の周知で温暖化防止を。

④ 環境展の開催を。

⑤ 本町のチームマイナス6%の取り組みは。

① バイオマスエネルギーを活用したまちづくりの考えは。

② 利用している剪定枝・草生ごみに加え、他の有機物も利用できるよう独自のバイオマス利用計画を策定し、数値化して進めていきたい。

③ 巡回バスのエコポイント制については、政策調整課と検討させていただく。

④ 電力会社やガス会社に協力を依頼し、「ふれあいまつり」の中で共同開催を働きかけたい。

⑤ マイカーから公共交通機関への移行としての巡回バス、太陽光発電への補助金、可燃ごみの削減等に取り組んでいる。

⑥ 細かいことでは、庁舎内の温度設定にも気を配っている。



柘植 満 議員

### バイオマスエネルギー

動植物から生まれた有機性の資源(バイオマス)を原料に燃料(エネルギー)として利用する。バイオマスには間伐材、家畜のふん尿、廃油などの廃棄物を利用したものとトウモロコシなどの栽培植物がある。バイオマスエネルギーは二酸化炭素バランスを壊さないクリーンエネルギーと言われている。

### 環境家計簿

環境家計簿は、家庭から排出される二酸化炭素を簡単に推計できるように、電気、ガス、ガソリン等エネルギーの使用量から算出するもの。月ごとの二酸化炭素排出量を把握することで削減への取り組みのきっかけになる。

## 江南厚生病院へ巡回バスを

室長 現段階ではできない

## 柘植

大口町から江南厚生病院に行くには不便である。高齢者や車の運転ができない人のために、巡回バスを運行してはどうか。

ぜひ、地域公共交通会議で検討を。

## 政策調整室長

巡回バスの乗

り入れは、名鉄バスとの協議・調整、さらに江南市と大口町の「地域公共交通会議」で合意を得る必要があるため、現段階では路線を延長することにはできない。

4月1日から名鉄バスが、布袋駅発、江南駅経由で江南厚生病院行きのバスを運行する。

現行の路線を活用した両駅へのアクセスを検討したい。

# 一連の失態に責任を取る考えは 町長 二度とないよう仕組みを正す



田中一成議員

## 田中

調査委員会の検討報告書から次の3点問う。

- ① 西館のアスベスト撤去900万円は18年度の工事。19年度になって設計変更し、支払いは会計上おかしい。
- ② プール下の地盤改良工事は、砂利採取によって支持地盤が12メートルと分かっていたら、あの位置にプールを建設することはなかったはずだ。
- ③ 町長部局は教育部からの報告がなかったため、知らなかったとされている。議員でも知っていることを知らなかったと言えるのか。それについて、何の責任も感じないか。

## 総務部長

① アスベストは処理が必要と判明した時点で、議会にも報告した。業者と相殺に対する認識にずれがあったことは事実。

会計上、必ずしも時宜を得た適正な措置とは思っていない。

② ボーリング調査の結果、支持地盤は5メートルだったので、それを基に計画された。

プールの位置は、検討委員会の協議で決定され議会にも報告してある。それぞれ手順を踏んで、データを基に進められたと思っている。

## 町長

③ 本来あるべき

決裁書類が町長部局まで上がっていない。行政の仕組みが機能していなかった。

費用が掛かるなら速やかに報告す



新校舍屋上から見た工事中の大口中学校プール。プールの下には雨水貯留槽が設置されている=20年1月22日、現地視察で

るようになってきたが、10月半ばになって初めて上がってきた。

総体として瑕疵があったわけではない、連携のまずさに起因する。

今後は、二度とこうしたことが起らないよう、それぞれの責任者が機能していくよう対応を正したい。

※ 3月21日、教育部職員3人は文書による訓告、副町長・教育長は口頭による訓告が行われた。

精神障がい者福祉として

## 大口町にも作業所を

## 部長 近隣の施設を利用して

## 田中

精神障がい者の社会参加を促進

するため、町内で作業所を設置してほしいという要望がある。江南市には江南保健所でのデイケアや「しらゆり作業所」がある。

前向きに検討すべきではないか。

## 健康福祉部長

精神障がい者

福祉は医療と密接に関係するため、高い専門性が要求される。実際に施設を運営する場合には、専門職が必要になる。

町としては、これまでの経験の蓄積がある江南市の「しらゆり作業所」や犬山市の「来果」等の

通所授産施設の利用を促進していきたい。

## 田中

せめて週に1回でもデイサービス

みたいな場所をつくってあげないと、障がい者の社会参加や家族を含めた交流の窓口は広がっていかない。

## 健康福祉部長

障害者福祉計

画等を策定する中で、専門家の意見を聞き、障がいのある方が住みよい環境づくりを制度として構築したい。

# 自治功労者表彰

## 田中一成 議員



全国町村議会議長会から2月6日、田中一成議員に自治功労者として表彰状が贈られました。

自治功労者表彰は、在職27年以上の議員に、長年にわたって地方自治の振興と発展に貢献したとして贈られるものです。

3月定例会の初日、議長からお祝いの言葉とともに表彰の伝達がされました。

田中議員は昭和54年5月から、連続8期の当選です。

### 視察報告

## 幼児期からの支援が決め手

### 5歳児健診で心と身体の問題を発見

大田原市では5歳児を対象に健康診査を行っています。目的は幼児の心身上の問題を発見し、早期に支援することです。

実施方法は保護者への問診と保健師・保育士による観察です。

保護者の評判は「早く分かってよかった」。市では、就学から就職まで子どもの経過を見ていきたいとのことでした。



江南市の市議会議員と一緒に、5歳児健診の実施状況の説明を受ける田中議員と吉田議員＝2月6日、大田原市役所で

日本共産党大口町議団は2月6・7日、栃木県大田原市と芳賀町を訪問し、5歳児健診と生ごみの堆肥化について調査しました。

### 民間主導の生ごみ堆肥環(わ)のまち芳賀

芳賀町の生ごみ堆肥は、一般家庭の生ごみのほか、商店や会社の食堂から出る残飯に、畜ふん、おがくず、もみ殻などを混ぜて作ります。

18年度の堆肥売上は370万円。採算ベース

に乗せるには規模拡大が不可欠とのこと。完熟堆肥は果樹、野菜などに利用され、農産物は学校給食等に使われています。

廃プラヤトレイはベンチやプランターに生まれ変わるなど、生ごみ堆肥とともに「見て分かる」資源のリサイクルに取り組んでいました。

### 視察会計報告

平成19年度に行った視察等の会計状況を報告します。

#### 常任委員会

#### 総務文教(7人)

視察先 京都府綾部市  
京都府舞鶴市

総額 30万円

#### 健康福祉(7人)

視察先 福井県鯖江市  
石川県能美市

総額 32万円

#### 環境建設(7人)

視察先 福井県加賀市  
滋賀県東近江市

総額 32万円

#### 議会広報(6人)

議会広報研修会(東京)

総額 25万円

#### 政務調査

大政クラブ・公明党(13人)  
視察先 岡山県岡山市  
京都府城陽市

総額 49万円

#### 日本共産党(2人)

視察先 栃木県大田原市  
栃木県芳賀町

総額 11万円

(単位未満は四捨五入)



議会だより

## 全国5位

おおぐち議会だよりは第22回町村議会広報全国コンクールにおいて入選(全国5位)を果たし、4年連続の表彰をいただくことができました。

今回の応募総数は199点です。

### 第22回町村議会広報 全国コンクール トップ10

最優秀賞	京都府南山城村議会
優秀賞	岩手県金ケ崎町議会
同	宮崎県高千穂町議会
同	宮城県大郷町議会
入選	愛知県大口町議会
同	福島県広野町議会
同	高知県越知町議会
同	宮城県丸森町議会
同	長野県白馬村議会
同	新潟県聖籠町議会

皆さん議会傍聴に  
来てください

次回定例会

6月4日(水)から 予定

手続き簡単。  
役場3階で住所と名前を書くだけ

発行責任者

議長

宇野昌康

議会広報常任委員会

委員長

鈴木喜博

副委員長

木野春徳

委員

吉田正

柘植満

岡孝夫

土田進

## 編集後記

北部中学校最後の卒業式に出席しました。生徒たちの合唱がとてもさわやかで、今までになく力強い歌声に感じました。

「北中のことを忘れないでください」。涙声の生徒の三言に、3人の子どもがお世話になった先生との思い出がよみがえり、思わず涙がぼろり。

私のウン十年前の卒業式は卒業生が450人。学校が狭かったので、市の公会堂まで20分、歩いてイスを運びました。北中は生徒数が少なく、みんなの顔が分かり、うらやましく思っていました。

北中の生徒諸君、今度は新しい中学校で頑張れ!!  
(柘植 満)

# まちの 元気者

中小口

## エアロビクス



音楽に合わせて軽快に、全身を使って運動するエアロビクス。

中小口では、昭和59年に婦人会有志で「さわやかグループ」を結成。健康づくりと親睦を目的に始めた活動が現在まで続いています。

最初は町の職員に指導を受けながら始めた体操も、現在では7曲に増え、毎週火曜日9時45分から10時45分までの1時間、中小口コミュニティセンターで汗をかいた後は、モーニングコーヒーにおしゃべり。

平成7年以降は健康推進員活動の一環として継続されていますが、特に代表や役員はなく、登録されたメンバーが順番に鍵当番を担当し、和気あいあいの中で運営されています。

### 取材を終えて

継続は健康の源、おしゃべりは活力の源と実感しました。  
(木野春徳)